

静岡文化芸術大学 図書館・情報センターだより

新 知 大 温

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2013.7 Vol.22

平成25年7月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
 〒430-8533 浜松市中区中央二丁目1番1号
 TEL(053)457-6124 FAX(053)457-6125
<http://www.suac.ac.jp/library/>

Contents

■表紙

『富士三十六景』 ————— ①

■図書館散歩

文庫本—移動のための書物 ————— ②

文化政策学部 国際文化学科 教授
 石川 清子

本について ————— ③

デザイン学部 空間造形学科 学科長
 寒竹 伸一

■シリーズ

図書館・情報センターを使いこなそう!

ディスクバリーインターフェース Part1 — ④

■知っていますか?こんなサービス

購入希望(リクエスト) ————— ⑥

■巻末

図書館ニュース ————— ⑧



『富士三十六景』 安藤広重 画
 アダチ版画研究所 1976 [721.8/A 47]

富士山が描かれた浮世絵といえば葛飾北斎の『富嶽三十六景』が有名ですが、『東都名所』や『東海道五拾三次』などで有名な浮世絵師初代歌川広重(安藤広重, 1797-1858.9.6)も富士山をメインモチーフにした揃物『富士三十六景』を作成しています。

広重の『富士三十六』は、広重の歿後(死因はコレラという説が有力)に刊行されています。しかし、『富士三十六景』本体の改印(江戸幕府が出版を認めた印)は広重が歿する5か月前の安政5(1858)年4月であるので、おそらく歿する以前に版下(版刻用の最終原稿)は仕上がっていたと思われます。広重が突然彼岸の彼方へ旅立ってしまったため、出版は歿後1年くらい経ってからになったのでしょう。

北斎の『富嶽三十六景』は横判の揃物ですが、広重の『富士三十六景』は『六十四余州名所図会』などと共に晩年になって多く作成された縦判の揃物となっています。そのため、鳥瞰や近像拡大型の構図が多くなっています。また、北斎の『富嶽三十六景』と広重の『富士三十六景』では、青色を多用していること、市井の風俗が描かれていることなどの共通点がある一方、その画風は北斎の楷書のような強さと広重の草書のような柔らかさという違いがあります。

参考文献

・赤坂治績著、『完全版広重の富士』(集英社新書)集英社、2011.[721.8/A 47]



文化政策学部 国際文化学科 教授

石川 清子
Ishikawa Kiyoko

本文中に登場した資料

吉岡実[著]
『続・吉岡実詩集』
[911.5/G 34/129]

白石かすこ[著]
『続・白石かずこ詩集』
[911.5/G 34/125]

葛原妙子[著]
『葛原妙子歌集』
[911.168/Ku 99]

山中智恵子[著]
『山中智恵子歌集』
[911.168/Y 34]

ユルスナール[作]; 岩崎力[訳]
『とどめの一撃』
[081/I 95/R 598-1]

ヴァージニア・ウルフ[著]; 中村佐喜子[訳]
『燈台へ』
[933.7/W 87]

スタンダール[著]; 大岡昇平[訳]
『バルムの僧院』(改版)
[953.6/St 4/1-2]

ヴァルター・ベンヤミン[著]; 浅井健二郎[編訳]
『記憶への旅』
(『ベンヤミン・コレクション』; 3)
[081/C 441/HE 3-3]

Arthur Rimbaud[著]
"Illuminations :
suiivi de Correspondance (1873-1891)"
("Garnier Flammarion"; 517)
[083.5/F 31/R 44]

文庫本—移動のための書物

フランス文学研究を専門とするゆえ本を買い込むことは人より多いであろうが、けっして愛書家でも活字中毒でもない。本との関係はむしろ淡泊で、繰り返し読む本や枕頭の本は思いつかない。小説の類いは概ね一度読んだら読み返すこともなく、何度も読む本とは差し当たり辞書や参考書ということになるのか。

読み終えてしまえば書架に収めるかその辺に積んでおくだけの人間だが、それでも捨てられずにずっと取っておく本もある。それらは研究のための本とは別で、専ら愉しみのために読んだ本であり、どこにでも持ち運べて寝転んでも読める文庫本であることが多い。今の自分にはその小さすぎる活字は苦痛だが、これはと言う作品との遭遇はとりわけ学生時代はたいてい文庫本だった。今も手元にある文庫本を以下何冊かあげようと思うのだが、自然にできあがった自分の読書の区分に気づく。日本の作品の場合は現代詩中心の詩歌、外国のものは小説というように。もちろん読むのは日本語であるが。

現代詩の発見は高校生の時だったが、大学時代は思潮社現代詩文庫を読みあさった。なかでも吉岡実が私のアイドルであり、日本語が異形の力を伴ってエロチックに脳髓にからんでくる。「詩は特定の人のものだ」という吉岡の逆説的な詩学は自分が詩を読む時の原点としてある。また、白石かずこの饒舌でファンキー、時にリリカルな調子は今でも新鮮。いずれも新版を推薦。

最近では詩よりも短歌をよく読む。長旅の時は、短歌の本を護符のように荷物に入れるのだが、この頃は現代歌人文庫の葛原妙子か山中智恵子と決まっている。車中で、あるいは就寝前に余白の多い日本語の縦の行の連なりを目にするとほっとする。「歩みきて戸口に鈍き海見えし猫は月光のやうにとどまる」(妙子)。「いづくより生れ降る雪運河ゆきわれらに薄きたましひの鞘」(智恵子)。共感しつつもなお謎として潜んでいるものを読み解こうとする、詩や歌を読むとはそういう経験であり、つまるところ、詩集や歌集は物語とちがって読み終える事がない。また、どこから読み始めてもよい。

小説を再読することは減多にないが、それでもぞくぞくしながら読んだのはいずれも外国小説の文庫本。女性として初めてアカデミー・フランセーズ会員になったM.ユルスナールをこれまで食わず嫌いでいた。ユルスナールはちょっと、と大学時代の師の一人がつぶやかれたからだと思う。しかし、『とどめの一撃』が文庫本になって、何気なく読み進めるうちに、この特異な戦争恋愛小説の冷徹で繊細な筆致に舌を巻いた。今後つきあっていくであろう作家の一人をかなり遅くに発見したことになる。実人生ではあまりおつきあいたくないタイプの人でも、本をとおしてなら崇拜の対象になる。著者が女性であることは、自分と同じ生き物ゆえそれだけで魅力的だ。同じく女性作家の作品として、V.ウルフの『燈台へ』も。いくつか版があるが自分の読んだ新潮文庫版をあげる。何も起こらない物語。「意識の流れ」と括ってしまえばそれまでだが、人物の心の裏に光が差し込み、その陰影から静かなドラマが生まれる。そしてフランス文学の古典から一冊。スタンダール『バルムの僧院』。主人公ファブリスがどれだけ美男か想像するのも楽しいが、この小説の面白さは荒唐無稽な少女マンガの展開に似たものがあって、特に終盤三十頁余の情熱的な大団円はすごい。

一般に思想家に分類されるW.ベンヤミンだが、その書きものの発するポエジーゆえ、彼をあえて詩人と呼びたい。なかでも『一方通行路』はエッセイ、覚書き、アフォリズムなどの雑多な文が都市の街路として編まれ、書くこと・読むことが街を歩くことに変わる不思議な作品。著者はこの書を一本の通りに見立て、そこに愛しい女性の名を与えている。ベンヤミンのなかで都市と書物は分ちがたく結びついているが、都市の移動のさなかに携帯可能な文庫版でベンヤミンを読めるのは小さな幸せである。

最後に本学図書館にあるフランス語のポケット版からA.ランボオの『イルミネーション』を。この詩集を「言葉のユートピアにして廃墟」と称した人がいる。若くして筆を折り彗星のごとくこの世を去った永遠の放浪者の言葉は、今なお、その暗号めいた詩行で私たちを魅了し続ける。辞書片手に挑戦してほしい。

移動する人に便利な紙媒体の文庫本を紹介したが、電子書籍がこれから充実すれば、タブレットでの読書へと次第に姿を変えていくだろう。書物を偏愛する人間ではないので読書の形態が変わるのをしかめ面して敬遠したりしないが、本に書き込みをしたり頁の端を折って目印にしているアナログ人間にはまだまだ敷居が高い。しかし、タブレット一枚に数千冊も収蔵できるなら、それはもう小さな図書館を持ち歩くことになる。



デザイン学部 空間造形学科 学科長
寒竹 伸一
Kantake Shin-ichi

本文中に登場した資料

太宰治[著]
『走れメロス』
〔『現代日本文学全集』; 49〕
[918.6/G 34/49]

岡倉天心[著]
『茶の本』
〔『現代日本文学全集』; 51〕
[918.6/G 34/51]

夏目漱石[著]
『三四郎』『それから』
〔『漱石全集』; 第4巻〕
[918.68/N 58/4]

本について

私は形に関わる仕事をしていますので、宇宙の存在形式に興味があります。

大学院、設計事務所勤務時代には、よく宇宙物理学（という分野があるのかどうかはわかりませんが）関係の本を読みました。読んでいますと、現代物理学と東洋思想、特に仏教の教えとが相通するように思いましたので、その後は、仏教関係の本を多く読みました。

設計事務所から独立し、自身の事務所を設立した頃、大学院の恩師である廣部達也先生から「建築オーダー試論」の作成の手伝いを頼まれ、西洋哲学の空間、特にアリストテレス、デカルト、ニュートン、ライプニッツ、ハイデッガーの空間概念について知る必要が生じました。日本語訳の本によってそれらを知ろうと思いましたが、訳本は便利ですが、気をつけたいといけません。ハイデッガーの空間に関する記述に不思議な部分がありましたので原本に当たると、ひとつのドイツ語の訳を、訳者の訳と違えて見ると、「なるほど」と一気に理解でき、ストーンと腑に落ちたという経験をいたしました。

アリストテレスの空間概念については、古代ギリシャ語/アラビア語/ラテン語/……/日本語/ですから況ンヤオヤであります。多言語に堪能で無い場合、過去の人々の考え方を本当に知りたいと思う時には、同じテーマを扱っている周辺の訳本を数冊から十数冊くらい読まないとい、本人の言いたかったことが、本当に分からないということを知りました。

書き言葉は進行が一方に縛られるため、多方向へ何度も伸び縮みするところが出来て、空間と時間から自由な話し言葉に比べて、分かり難い面があります。書き言葉によって、本質を表すことは非常に難しいということです。

シャカも孔子もソクラテスもキリストも書き言葉は残していません。（今のところ）

ライプニッツ、ハイデッガーは東洋思想に学び、ニーチェ、ハイデッガーは言葉発生時の意味に迫ることによって、各自の考えを確立しようとしてきました。私も彼らの方法を真似するようにしています。そうすると、物事の本当の意味に近付くことが可能になりますし、いわゆる一般的な〇〇辞典には、本当に知りたいことはあまり書かれていないということもわかります。

図書館・情報センターの係の方からは、私自身の読書体験から学生のみなさんへ数冊の良書の紹介をもとめられていますが、みなさん全員にとっての良書というものが、在るかどうかもわかりませんし、私の良書、悪書の価値観も普遍であるはずがありませんので、かわりに、私の若い頃の数少ない本との関わり方をひとつずつ開示することでおゆるしを願いたいと思います。

『走れメロス』太宰治著：中学2年の国語の時間に読まされました。読書感想の時間、クラス全員が異口同音に「ありえない」「絵空事」と反応したのに対して、国語担当の上野先生（その対応が予期しないものだったので今でもその名前、顔、体型を鮮明に覚えています。）が一言、「君たちは、そんなに貧しい心しか持ち合わせていないのか、私は残念です。」といって教室を出て行かれました。本を読む時には、ストーリー自体の現実性に捕われるのではなく、ストーリーの奥にある「私はどう生きたいか」を考える必要性を教えられました。

『茶の本』岡倉天心著：大学4年生の時に読みました。当時私は、西洋近代思想に疑問が多くあった頃でしたので、いろんな本で東洋思想である道教・儒教・仏教の記述に当たりましたが、悟りを開くことができるような能力もありませんでしたので、どの本を読んでも本当のところはよくわかりませんでした。そんな中で、この『茶の本』は実に分かり易かったことを覚えています。理由のひとつは、この本は最初に英語で出版され、その後に日本語訳されたものだからです。日本語（特に禅などを説明する日本語）は、「AはBであってBでない」などと、論理学上矛盾する表現で事の本質を表わそうとするのでチンプンカンプンです。その点、西洋の言葉は、論理を重んじますので、明治以降、特に戦後、西洋の近代合理主義によって教育された私たちには、ありがたいのです。

同じ理由で、鈴木大拙さんの本もわかりやすいと思います。

最後に、笑える本当にあったお話をひとつ。

『三四郎』夏目漱石著：高校1年生の担任が国語担当の河野先生でした。理科科目に対して現国の成績が見劣りするということで、卓球部の塩野君と弓道部であった私が教員室によばれました。現国の成績向上の為に、漢籍の素養のある漱石の『三四郎』と『それから』を読むように言われました。『三四郎』を塩野君が読み、『それから』を私が読む事になりました。数日後の2人の会話は次のようなものでした。

塩野「寒竹、この本、全然柔道の話がでてこないけれど、どうしてだろう。」

寒竹「おかしいね、その内そういう話になるんじゃないか……。」

ディスカバリーインターフェース Part1

2013年4月に図書館・情報センターのWebサイトを更新しました。それに伴い、新たなサービス「ディスカバリーインターフェース」が利用できるようになりました。ディスカバリーインターフェースでは、これまでの蔵書検索(OPAC)よりもGoogleやAmazonの検索システムに近い検索機能を提供していますので、目的の資料がより簡単に見つかります。

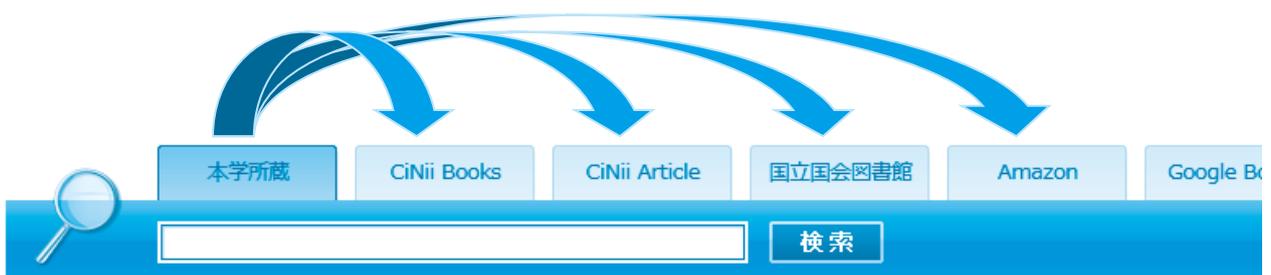
・サジェスト機能：検索キーワードを自動予測！

キーワードを入力すると、過去の有効な入力履歴を基に、検索キーワードの候補が表示されます。



・外部システム連携機能：CiNiiなどの様々な情報資源の検索が簡単に！

検索キーワードを入力したタブを切り替えるだけで、本学の所蔵だけではなく、CiNiiや国立国会サーチ、Amazon、Google Booksを同じキーワードで横断的に検索することができます。



・ファセット機能：検索結果を絞込み！

検索結果一覧から、「資料種別」「著者」「件名・キーワード」「出版年」などの項目で検索結果を絞り込むことができます。また、項目ごとに資料数が表示されます。



・ランキング表示と表紙イメージの表示：検索結果をわかりやすく表示！

入力されたキーワードの出現回数や書誌データの項目の重み付けをもとに関連度が高いとみなされた順に結果を表示します。また、関連度だけではなく出版年順やタイトル順、著者名順などで検索結果を並べなおすことができます。さらに、Google Booksにある表紙イメージを表示します。



購入希望 (リクエスト)

「読みたい本がない」「こんな本を置いてほしい」「論文を書くのに必要な本だけが高価だし…」といったことはありませんか？
そんなときは、購入希望(リクエスト)をしてください。

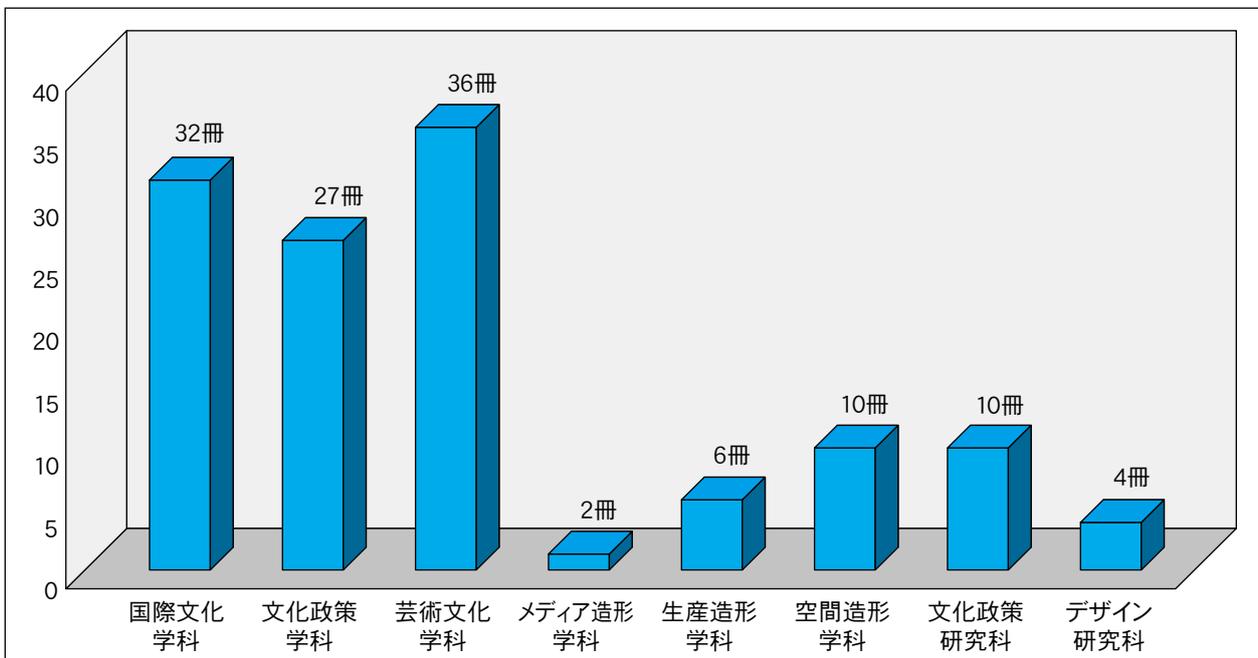
購入希望をするには、「購入希望図書申込書(3枚綴り)」に必要事項(図書の情報など)を記入して、カウンターに提出してください。希望図書の内容・予算等を検討の上、購入します。購入希望を提出した図書が利用可能になった時点で、メール(SUACメール)にてご連絡します。

申込みに際しての注意事項

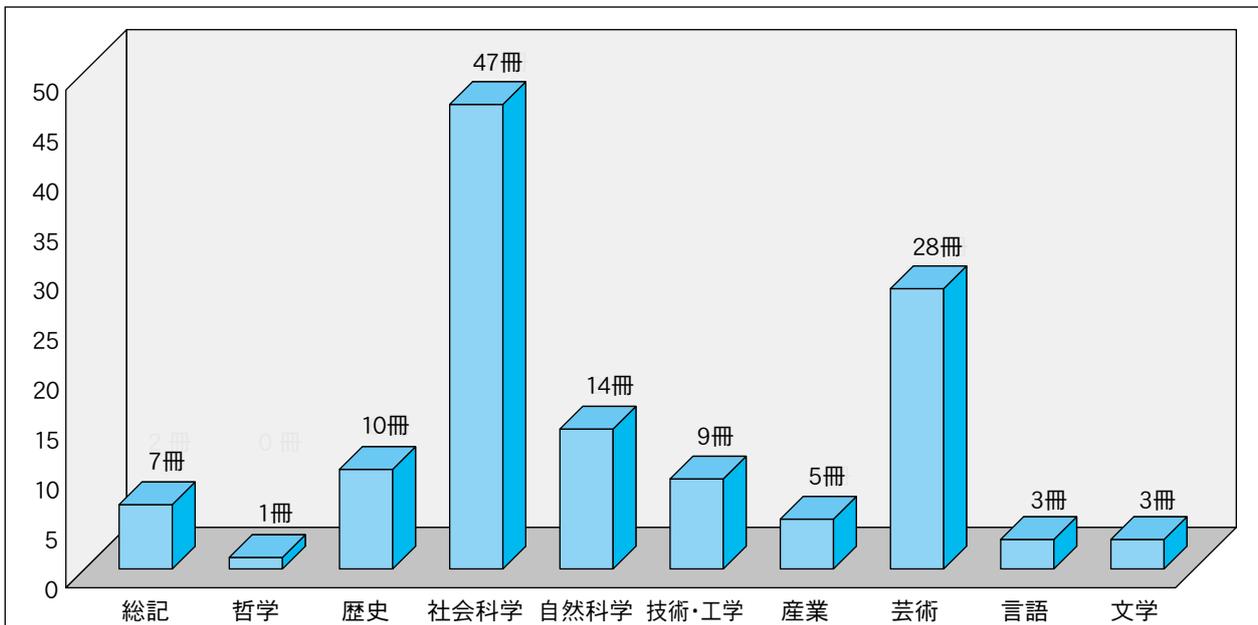
- ※申込みは、「[本学の学生](#)」に限ります。
- ※雑誌・漫画類及び1点5万以上の高額図書を除きます。
- ※既に蔵書として所蔵している図書は購入出来ません。
- ※出版社、価格等不明な点がありましたら、カウンターでご相談ください。

◎2012年度の実績

・学科別



・分野別



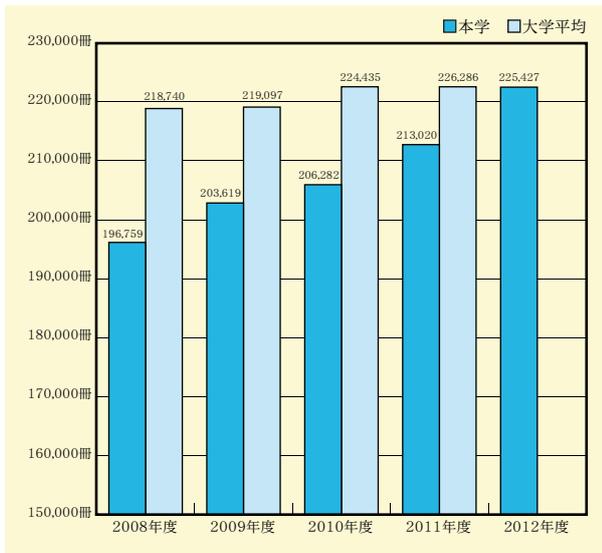
・購入図書一覧

請求記号	書名	請求記号	書名
024.1/N 39	マンガ産業論	387/Y 99	幽霊の正体
051.9/Ko 73	なぜ「美少女凶鑑」は7日で街から消えるのか?	480.9/Sa 75	シー・シェパードの正体
081.1/95/R509-1	物質的恍惚	487.5/Ka 17/1	衆鱗図：高松平家所蔵 第一帖
092.1/Sh 51/3-1	幕末開港 上(下田市史)	487.5/Ka 17/2	衆鱗図：高松平家所蔵 第二帖
092.1/Sh 51/3-2	幕末開港 中(下田市史)	487.5/Ka 17/3	衆鱗図：高松平家所蔵 第三帖
092.1/Sh 51/3-3-1	幕末開港 下の1(下田市史)	487.5/Ka 17/4	衆鱗図：高松平家所蔵 第四帖
092.1/Sh 51/3-3-2	幕末開港 下の2(下田市史)	487.5/Ka 17/5	衆鱗図：高松平家所蔵 研究編
114.2/Ta 16	生と死の様式	490.15/Ku 77	臓器移植法を考える
210.05/Ko 49/156	「共同研究」人文・自然景観の開発・保全と文化資源化に関する研究	490.15/N 99	脳死・臓器移植と日本社会
210.42/Ki 56/1	全譯吾妻鏡	490.154/L 77	脳死と臓器移植の医療人類学
210.58/Sh 63/1	新選組史料集	490.154/Su 14	なぜ日本では臓器移植がむずかしいのか
210.58/Sh 63/2	新選組史料集	494.28/F 42	臓器交換社会
210.58/Ta 29	幕末維新京都町人日記	495.48/Ts 39	生殖技術
289.1/N 27	断ちきれない絆	498.13/Ka 25	入門医療経済学
292.59/A 62	スリランカ鉄道旅行 内陸部編	498.13/U 88	医療経済学
292.59/Ka 94	恋こがれてスリランカ	518.8/Sa 38	眺望・景観をめぐる法と政策
293.3/A 38	イギリスdeワーキングホリデー	520.87/Ki 29/2	「型」の概念
295.1/O 75	ワーキングホリデーinカナダ	520.87/Ki 29/3	日本型住宅
310.4/A 12	新しい国へ	520.87/Ki 29/4	新世紀の建築をめざして
312.1/O 24	約束の日	521.82/Sa 29	幻の安土城天守復元
320.49/N 15	恋の六法全書	526.67/E 15	Onsen：温泉の建築空間デザイン
321.4/H 96/1	紛争回避の新たなアプローチ	540.36/D 58/2012	電力エネルギーまるごと!時事用語事典 2012年版
321.4/H 96/2	トラブル回避の心構え	583.75/Ko 44	椅子の科学
326.23/Ka 31	死刑台からの生還	597/Ta 89	スモール・スペースス
326.25/Sh 94	情報化時代の名誉毀損・プライバシー侵害をめぐる法律と実務	648.2/Mo 45	いのちの食べかた
326.3/Sa 29	犯罪被害者支援とは何か	664.9/Ta 88	反捕鯨?
327.6/H 32	逆転無罪の事実認定	688.22/Ma 77	アジアの観光開発と日本
327.6/Ko 39	冤罪を生まないための裁判員裁判	689.4/Y 32	アニメ・マンガで地域振興
327.67/A 99	裁判員制度と知る権利	689.81/N 71	温泉遺産
327.67/Ts 32	裁判員制度と報道	702.1/Mu 58	日本美術史の杜
327.8/Sa 96	少年法入門 第5版	706.921/I 19	光悦・宗達から江戸琳派
327.85/H 74	現代日本の少年院教育：質的調査を通して	706.923/F 67	藤田嗣治と愛書都市パリ
327.933/H 33	人権を守る人々	706.927/Su 48	杉浦非水展
333.8/O 87	国際開発学入門	709.142/To 79	都萬麻
334.453/Tu 1	Choosing ethnicity, negotiating race	721/A 82	日本美術に描かれた女性たち
335.89/P 11	NPO実践マネジメント入門	723.35/Ku 72	光の粒子
335.89/Sh 36	非営利組織のマネジメント	723.35/P 94	マネの想い出
335.89/Ta 64	こうだったのかNPOの広報	723.35/Y 83	スーラ
336.2/N 39	対話する力	723.37/B 23	とめどなく笑う
361.3/I 51	ソーシャル・キャピタルのフロンティア	723.7/B 75	Bronzino
367.68/H 84	「ニート」って言うな!	725.6/Mo 76	ペン画のすすめ：線が織りなす懐かしい風景
367.97/Mo 73	「ゲイコミュニティ」の社会学	726.5/G 43	HR Giger ARH+
367.97/Sa 91	カナダのセクシュアル・マイノリティたち	726.5/G 43/1	ネクロノミコン 1
368.4/A 27	アジアの子ども買春と日本	726.5/G 43/2	ネクロノミコン 2
368.4/Ta 33	売買春問題にとりくむ	748/I 61	エヴァ：イリナ・イオネスコ写真集
369.4/B 38	International Korean adoption	753.2/N 21	小袖雛形
369.4/Ki 31	Adopted territory	757.04/Sa 85	ネンドノカンド
369.4/P 23	Locating Korean American adoptees	762.37/To 71	トスカニーニ
370.35/Ky 4/1	まなぶ(教育関係NPO事例集Vol1)	763.9/Ta 67	テルミン：エーテル音楽と20世紀ロシアを生きた男
370.35/Ky 4/2	はばたく(教育関係NPO事例集Vol2)	764.7/N 92	もしもバンクがなかったら
370.35/Ky 4/3	いきる(教育関係NPO事例集Vol3)	764.7/R 29	ポストバンク・ジェネレーション1978-1984
370.35/Ky 4/4	はぐくむ(教育関係NPO事例集Vol4)	772.1/I 89	芸術と環境
370.35/Ky 4/5	つなぐ(教育関係NPO事例集Vol5)	778.09/Te 95	映像のコスモポリティクス
370.4/Ma 81	コミュニケーション教育の現状と課題	778.233/Ka 97	イギリス映画と文化政策
371.5/Ka 44	ニューカマーの子どものいる教室	778.234/L 24	M
376.1/Sh 69	小1プロブレムの予防とスタートカリキュラム	780/L 51	スポーツの経済学
383.1/F 47	Excess : fashion and the underground in the '80s	787.6/O 88	鷹匠の技とこころ
383.1/Mo 45	桃山・江戸のファッションリーダー	801.1/H 71	字本
383.15/Ki 53	日本の女性風俗史	810.7/Ko 51/2009	海外の日本語教育の現状
383.15/N 48	学校制服の文化史	840.7/Kn 1	ドイツ語で手帳をつけてみる
383.7/Ko 97	日本の刺青と英国王室	902.3/To 34	21世紀の世界文学30冊を読む
383.7/N 39	刺青の真実	913.436/I 45	義経双紙
383.7/O 48	Tattoo in Japan	945.6/Ma 35	ゲーテ『イタリア紀行』を旅する
383.7/R 25	「特集」風俗としての刺青		

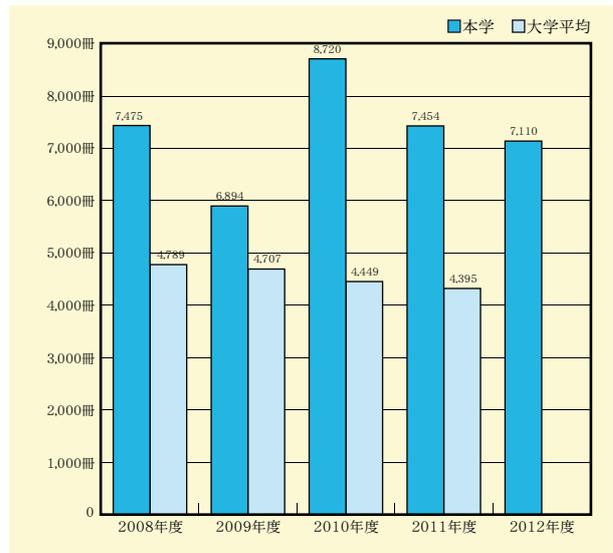
(計 129冊)

図書館・情報センターの蔵書数および利用状況

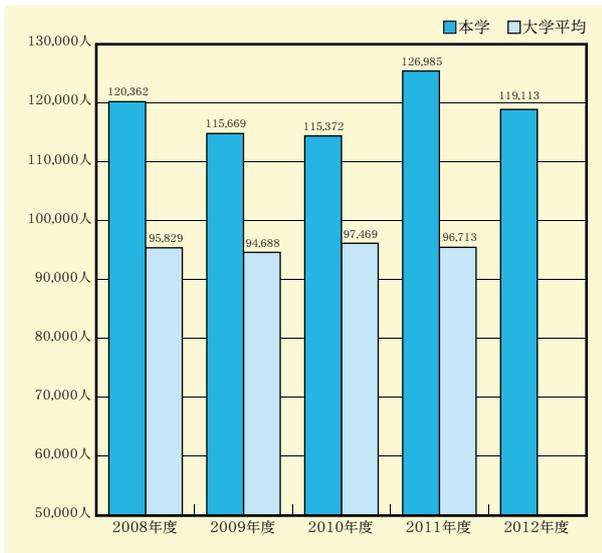
◎蔵書冊数



◎受入冊数



◎入館者数

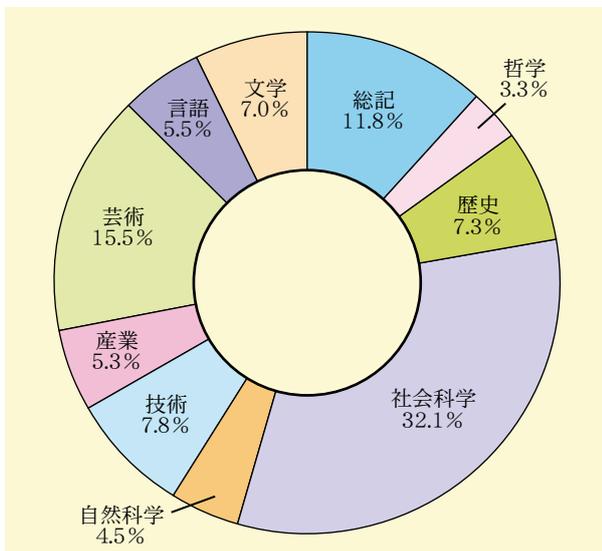


◎館外貸出冊数



「大学平均」は『日本の図書館：統計と名簿』より算出

◎2012年度貸出図書分野別割合



○蔵書

蔵書は約22万5千冊で、そのうち視聴覚資料（DVDやCDなど）が約6千7百点でした。また、2012年度の受入資料は、図書と視聴覚資料を合わせて、約7千1百冊でした。

○閲覧

2012年度の入館者数は約11万9千人で、2011年度に比べて6%ほど減少しました。また、貸出冊数は約3万6千冊、うち学生貸出が約3万冊で、いずれも過去最多だった2011年度に比べ、約5%の減少でした。

2012年度の学生1人あたりの年間貸出冊数は20.4冊で、2011年度に比べて0.7冊減少したものの、依然として全国の大学平均を大きく上回り、県内の大学ではトップでした。

※くわしい情報は図書館・情報センターのホームページで!